

みる つくる がたる

千葉県立美術館報

VOL. 15 NO. 3

(通巻58号)

昭和63年11月10日発行

編集・発行人 藤川 昶

〒260

千葉市中央港1丁目10番1号

☎0472-42-8311 (代表)



「垣根に沿って草を食む羊」

ジャン・フランソワ・ミレー (油彩・一八六〇年頃)

本館は、近代日本洋画の発展に大きな功績を残した浅井忠を収集の一つの柱とし、浅井の作品及び関連資料の収集並びに調査研究に努めてまいりました。同時に浅井忠を核として、その関連作家の作品の収集もすすめております。

浅井の師フォンタネージとバルビゾン派とのかかわりは、近年研究がすすめられているところですが、本館ではさらに関連作家として、19世紀ヨーロッパの近代絵画運動に大きな足跡を残したバルビゾン派や写実派の作家の作品を収集し、より一層のコレクションの充実を図っていきたいと考えています。

このたび、基金によりミレー作品を新たに収蔵し、皆様に公開する運びとなりました。自然の中の農民の日常生活をキャンバスに写しとったミレーの作品は日本にも親しく紹介され、それは、近代日本の洋画の発展にも少なからぬ影響を与えています。

この作品は、「落穂拾い」「晩鐘」など代表作を次々に描き、農民画家として確立した円熟期の46歳頃の作品です。右隅の木かげに羊飼いらしき人物が見え、羊の群れがのどかな牧草地の陽光の中で幸福なひとときを過ごしています。ミレーの暖かいまなざしを感じさせる作品です。

みる (展覧会)

昭和63年度常設収蔵作品展Ⅱ期

12/13
4/13

今年度常設収蔵作品展第Ⅱ

期は前期(12・13)と2・5)

と後期(2・7・4・13)に分けて開催します。

前期では、浅井忠の優れた

才能が発揮された水彩画の作品を中心に、周辺作家の水彩

画作品と併せ、日本の水彩画史をたどる展覧とします。

後期では、浅井忠のデッサン及び日本画を重点的にとり

あげ、周辺作家の作品とともに展覧いたします。

また、今年度新たに収蔵した作品を順次紹介してまいります。

主な展示作品は次のとおりです。

○前期

浅井 忠「沢入駅」「金州城壁上」「フォンテンブローの森」

「洋上の夕陽」「京都高等学校芸学校の庭」

石井柏亭「舟に居る人」

加藤源之助「秋の山(大和初瀬村)」

長谷川良雄「晩秋」

河合新蔵「竹林図」

大下藤次郎「青梅」

水野以文「草花」

中西利雄「外房風景」

小堀 進「山」

○後期

浅井 忠「印旛沼」「鍛冶橋」「鎌倉」「溪流」「曳船通り」

「房州白浜」「磐梯山の図」「中沢岩太像」「田植之図」

「松」「梅」「盗賊」「もうひとつの鳳仙花」「狂女」

松岡 寿「森と小川」

石井柏亭「信州風景」

都島英喜「八瀬の秋」

伊藤快彦「林檎」

桜井忠剛「バラ」

間部時雄「田園風景」

黒田重太郎「浴後」

安井曾太郎「デッサン(裸婦)」

田中志奈子「デッサン(棒を

持つ裸体)」

足立源一郎「下加茂森」

○新収蔵作品(前期のみ)

日本画

横尾芳月「新春」

島田良祐「海近き村」

西村昭二郎「新雪」

黒沢吉蔵「古郷晩夏」

洋画

国松桂溪「仏国ドルトンヌ」

西川 純「保津峡」

宮城泰介「平和」

安藤信哉「みなと」

彫刻

本郷 新「裸婦」

菊池一雄「手を挙げる」

工芸

蓮田修吾郎「鐘がなるリュベック」

ベック」

浅見蘭秀「牧水かる堂」

後期には、渡辺学(日本画)、須田国太郎(デッサン)、増村益城(漆芸)、武田武弘(漆芸)、関谷四郎(鍛金)、鹿島一谷(彫金)他の新収蔵作品を紹介していく予定です。

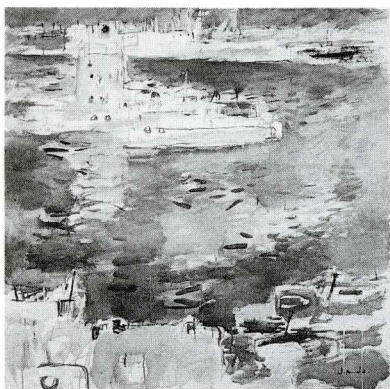
なお、今年度基金取得作品として、ジャン・フランソワ・ミレー「垣根に沿って草を食む羊」を特別展示しておりますので、併せて御鑑賞ください。



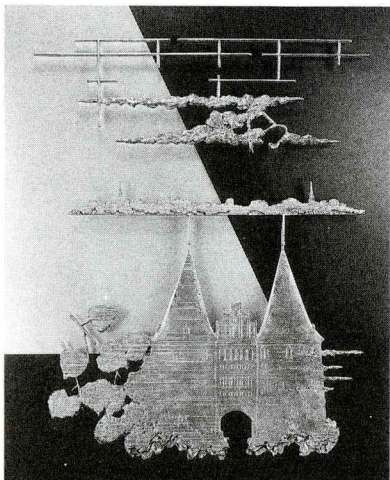
浅井 忠 「沢入駅」



長谷川良雄 「晩秋」



安藤信哉 「みなと」



蓮田修吾郎 「鐘のなるリュベック」

第12回千葉県移動美術館開催

千葉県移動美術館は、昭和52年度に開催し、毎年県内2会場に本館収蔵作品を巡回し、広く県民の方々に美術鑑賞の機会を提供してきた。開催地の多大な協力を得ながら活動の続けている本展は、他の展覧会とはまた一味違った意義を持つものとして好評を得ている。今後も各地からの要望に応じつつ本事業を進めていく方針である。

入場料 無料

今回は、収蔵作品に加えて、県芸術祭の一環として行われ、多数の県民の方々が出品する千葉県美術展覧会（県展）での受賞作品を併せて展覧し、現在の本県美術の動向の一端にも触れていただくことにした。ただし、会場のスペースの都合もあり、受賞作品の中から、県展賞及び文部大臣奨励賞の作品に限定させていた。

本展において、より一層、美術を身近なものとして親しんでいただければ幸いである。

■展示作品

○館収蔵品

▲日本画

富取風堂「朝光」、島多訥郎「秋趣」、立石春美「狗」、秋葉長生「西の京」、渡辺学「下総の海女」、岩崎巴人「風の中の釈迦」、松尾敏男「原野」

▲洋画

浅井忠「婦人像」、大下藤次郎「紫陽花」、都島英喜「巴里郊外サンクルール」、石井柏亭「安倍川」、霜島之彦「ロシアの女」、小山周次「花菖蒲」、黒田重太郎「女と小犬」、安井曾太郎「熱海附近」、梅原龍三郎「竹窓読書図」、原勝郎「モンマルトル」、鶴田吾郎「谷川岳」、石橋武治「夜の富士」、鱧利彦「房州伊豫ヶ岳」、椿貞雄「鴨図」、不破章「二女」、小堀進「花と海」

▲版画

浜口陽三「ういきょう」、星襄一「大樹」、深沢幸雄「影（メヒコ）A」、池田満寿夫「Something 1」

▲彫刻

大須賀力「もたれる」、佐藤忠良「ラップ帽」、山崎英五「地を這うものどもⅧ」

▲工芸

香取秀真「笑獅子香炉」、津田信夫「鳳翔薫炉」、宮之原謙「象嵌磁鉢」、土肥刀泉「釉彩面耳花瓶」、香取正彦「龍銀玉錯花瓶」、大須賀喬「蝶」

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）

▲工芸

平野博次「転界」（文部大臣奨励賞）

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）

▲工芸

平野博次「転界」（文部大臣奨励賞）

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）

▲工芸

平野博次「転界」（文部大臣奨励賞）

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）

▲工芸

平野博次「転界」（文部大臣奨励賞）

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）

▲工芸

平野博次「転界」（文部大臣奨励賞）

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）

▲工芸

平野博次「転界」（文部大臣奨励賞）

▲書

飛田冲曠「芍薬花」（県展賞）

▲工芸

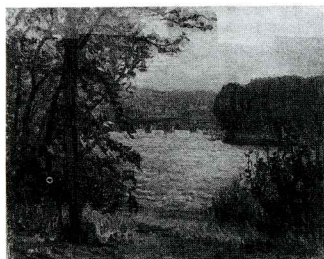
藤田潤「彩」（県展賞）

▲洋画

佐久川園子「シャボン玉天まであがれ」（県展賞）

▲彫刻

堀内育子「風天女―はごろも」（県展賞）



都島英喜「巴里郊外サンクルール」



不破 章「二女」



特別展

「石井柏亭と近代絵画の歩み」

終了。

63年9月10日から10月16日まで開かれた本展は、明治・大正・昭和の画家で絵画以外の他のジャンルでも多面的な才能を発揮し、批評家、詩人、教育者等精力的に活躍し、それぞれ優れた業績に遺し著作の規模も大きく広い巨人的存在の石井柏亭を知るひきびさりの本格的な回顧展であった。

会場では、東京はもとより長野県はじめ県外からの見学者の姿も多く見うけられ盛況であった。

会期中、匠秀夫氏による「石井柏亭と近代美術」（美術講演会）や田坂乾氏「石井柏亭を語る」（美術を語る会）の講演は、柏亭の人と芸術をわかりやすく解説され、好評であった。

野外彫刻の鑑賞を

〔現代日本具象彫刻展の招待作品から〕

秋も深まった美術館の中庭には、静かなたたずまいの中に野外彫刻がしっくりと調和し、芸術の香り高い彫刻の広場をつくりあげています。これらの彫刻は、前号の館報でもお知らせしました「現代日本具象彫刻展」の招待作家及

び一部の大賞受賞作家の作品、館蔵の彫刻作品などです。各作品には、作者題名等が記入されたネームプレートが取り付けられています。ここでは、主に現代日本具象彫刻展の招待作家を紹介します。この機会に野外彫刻をじっくり

御鑑賞ください。

現代日本具象彫刻展と招待作家

青葉の森公園の「彫刻の広場」に設置する優れた具象彫刻作品を選定するため、昭和60年に第一回現代日本具象彫刻展が、また昭和62年には第二回展が開催され、現在までに招待作品9点、大賞受賞作品6点が制作され、公園が完成するまでの間、美術館内の中庭及び南側庭園内に仮設置されています。

招待作品は、現代日本具象彫刻を代表する作家、千葉県に関連ある作家により制作され、現代日本具象彫刻を代表するものです。

招待作家の略歴（五十音順）

大須賀 力（一九〇六―）

東京都に生まれる。東京美術学校彫刻科卒業。日展参与、日本彫刻会会員、日本美術家連盟常任理事、千葉県美術会常任理事。勲四等瑞宝章受章。千葉県文化功労者。千葉県市川市在住。

大須賀 力 「杜の詩」



神野義衛 「とこしえに」



神野義衛

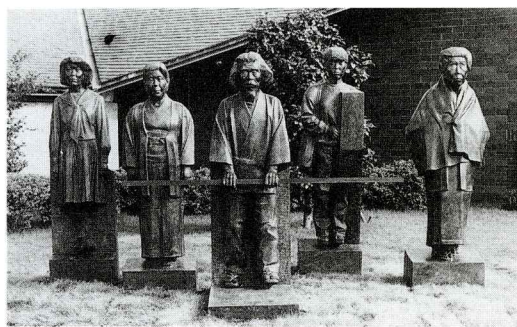
（一九一九―）

東京都に生まれる。東京美術学校彫刻科卒業。日展評議員。千葉県美術会功労者。千葉県美術会理事長をつとめる（現在は常任理事）。千葉県柏市在住。

鈴木 実

（一九三〇―）

山形県に生まれる。桜井祐一に師事、国画会会員となり活躍する。平楠田中賞、中原悌二郎賞などを



鈴木 実 「家族の肖像 1」

受賞。ながく千葉県流山市に居住した。日本大学芸術学部講師。現在は茨城県取手市に在住。

北村西望

（一八八四―一九八六）

長崎県に生まれる。東京美術学校彫刻科を首席で卒業。日本芸術院会員。平和記念像」を完成。文化勲章受章。日展名誉会長、東京都名誉都民となり、武蔵野市に居住した。

佐藤忠良

（一九一二―）

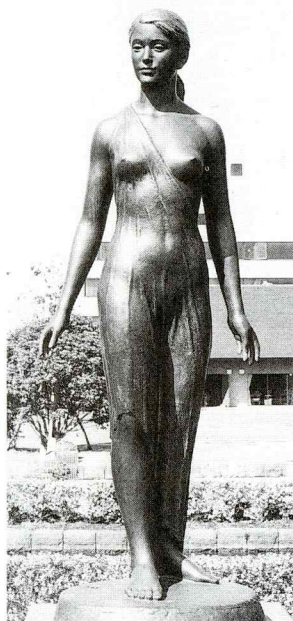
宮城県に生まれる。東京美術学校彫刻科卒業。新制作派協会創立会員となり活



北村西望 「天女の舞」

躍。高村光太郎賞、毎日芸術賞、芸術選奨文部大臣賞他を受賞。東京都杉並区に在住。

長谷川 昂（一九〇九〜）千葉県に生まれる。佐々木大樹に師事。サイゴン国際美術展でグランプリ金メダル受



舟越保武 「春」



長谷川 昂 「葉かげ」



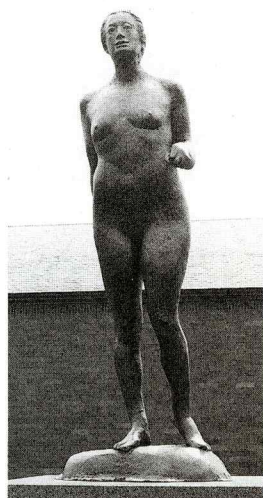
佐藤忠良 「緑の風」

賞。千葉県教育功労者。日展会員、千葉県美術会会長。東京都中野区在住。

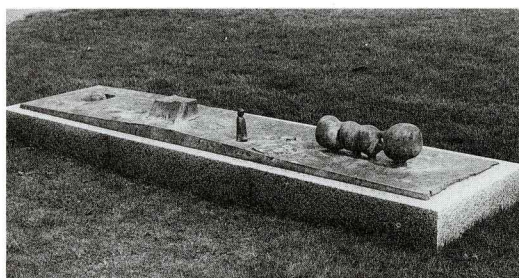
舟越保武（一九一二〜）岩手県に生まれる。東京美術学校彫刻科卒業。新制作派協会創立会員。高村光太郎賞、中原悌二郎賞、芸術選奨文部大臣賞他を受賞。東京都世田谷区在住。

柳原義達（一九一〇〜）兵庫県に生まれる。東京美術学校彫刻科卒業。国画会、新制作派協会などで活躍。高村光太郎賞、中原悌二郎賞他を受賞。平櫛田中賞選考委員。東京都世田谷区在住。

山本正道（一九四一〜）京都府に生まれる。東京芸術大学彫刻科卒業。新制作派協会会員となり活躍。平櫛田中賞、中原悌二郎賞受賞。イタリア、アメリカに留学。東京芸術大学助教授。



柳原義達 「犬の詩」



山本正道 「旅の記憶」

神奈川県藤沢市在住。

その他の野外彫刻作品

野外彫刻は、この他、現代日本具象彫刻展の大賞作家6名の作品、収蔵作品、および浅井忠像などがありますので御鑑賞ください。

「ごあんない・団体展」

- 第20回ファンシー洋画展
10月12日〜10月16日
- 第20回現展千葉支部展
10月12日〜10月16日
- ダネラ・デコパージュ展覧会
10月12日〜10月16日
- （以上終了分）
- 第40回千葉県美術展覧会
10月22日〜11月13日
- 千葉県高等学校総合芸術祭美術・工芸・書道作品展
11月16日〜11月27日
- 第33回子ども県展
11月29日〜12月11日
- 第6回明るい社会づくりポスターコンクール展覧会
12月13日〜12月18日
- 今日の美術を考える会展
12月13日〜12月25日
- 第24回登龍社宮坂会書初展
1月5日〜1月8日
- 第18回千葉県大学美術連盟展
1月5日〜1月8日
- 第16回富士百景写真展
1月10日〜1月16日
- 子ども造形展
1月10日〜1月16日
- 親子絵画展
1月10日〜1月16日
- 千葉敬愛短大書道展
1月10日〜1月16日

かたる・つくる

(美術を語る会・実技講座等)

美術館実技講座

■デッサン講座(2)

期日 1月12・13・18・19・20・25・26・27日

〈8日間〉

講師 自主研修

定員 30名

内容 石こう・着衣・コスチューム等

締切 12月22日(木)



デッサン講座会場

友の会実技講座

◎日本画入門講座

期日 1月26・27・28・29日

2月1・2・3日

〈7日間〉

講師 五十嵐 幹氏



日本画講座会場

ごあんない・実技講座

定員 25名

内容 静物等、10号

締切 1月12日(木)

◎洋画入門講座(3)

期日 2月1・3・7・8・10・12日

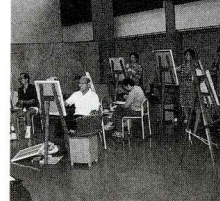
〈6日間〉

講師 久保木 彦氏

定員 30名

内容 風景・静物

締切 1月18日(水)



洋画講座会場

時間 美術館講座12時

友の会講座10時4時

申し込み 各講座とも住復

はがきに、希望講座名・

住所・氏名・電話番号・

年令を明記のうえ、美術

館普及班(友の会講座は

友の会事務局)まで。

なお、定員を越えた場合

は抽選となります。

※都合により日程を変更す

る場合があります。

情報資料室から

新たに図書約60冊を入荷しました。今回は、作家・評論家による評論集・自伝なども多く入りました。作家について、芸術について、更に深く知りたい方へ、お勧めします。

○著作集・評論集

「大菩薩峠」「宮本武蔵」等の新聞連載小説の挿絵で一躍人気を博した石井鶴三。彼の彫刻家・教育者・文筆家などとしての幅広い活動の全貌を伝える「石井鶴三全集」。

日本美術の評論で知られる河北倫明の「画人遊歴」は、各種展覧会や図録、画集に掲載された著者の論文の中から近現代の画家論のみに絞ってまとめたもの。ほか、前衛美術運動の鋭い評論で知られる針生一郎の評論集。朝日ジャーナルに連載された「光芒の一九二〇年代」には演劇、科学、美術、その他各分野において、画期的発展を遂げた一つの時代の魅力を伝えます。

作家論としては、「小川芋銭の世界」「セザンヌ物語」「ジャスパージョーンズ」や写真家ブラッサイが、今世紀を代表する様々な彫刻家・画家たちとの交流を写真と著述で綴

った「わが生涯の芸術家たち」変わったところでは画廊企画展の計画立案から終了までを一冊にまとめた「画廊のしごと」や「英国の水彩画」などがあります。

○画集・作品集

「日本現代美術」は、一九五〇～一九八五年にかけて制作され、国内の美術館に収蔵された絵画・彫刻・工芸等の代表作を紹介しています。

その他、「ループルとパリの美術」、暮らしの中に息づいてきた形の魅力に迫る「文様」は、朝日新聞日曜版に連載され、好評だったシリーズです。存在の虚無性を主張するような彫刻が印象的なジャコモツティの作品集や日本画家、川崎小虎の画集などもあります。

○技術書・辞典

「神楽面の彫り方」「金工の伝統技法」等の技術書や、西洋美術に登場する人々や主題内容の解釈の一助となる「西洋美術解説辞典」等入っています。どうぞ御利用下さい。

美術を語る会

第7回は11月12日(土)に、話題提供者として深沢幸雄氏を迎え、版画のはなし(多くの工夫した電動ベルソー)とい

うテーマで行なわれた。

今後の予定としては第8回は64年1月21日(土)、話題提供者に書家の千代倉稔氏、テーマは「書・こんなことを知りたい」(仮題)研修室、午後2時4時、一般30人/50人無料。第9回は2月11日(土)、話題提供者、テーマは未定。第3回現代日本具象彫刻展に因んで考慮中。会場、時間、対象等は前回と同じ。

日誌抄

8・27 第四回美術を語る会(話題提供者 鈴木治平氏)

9・3 第五回美術を語る会(話題提供者 天野三郎氏)

9・10 特別展「石井柏亭と近代絵画の歩み」(10・16まで)

9・17 第二回美術講演会(講師 匠秀夫氏)

9・24 第六回美術を語る会(話題提供者 田坂乾氏)

10・7 第二回美術館協議会前号日誌抄中、6月4日講師は千足伸行氏

職員異動

昭和63年8月1日付けで、次の職員が異動しました。
◆転入者 賢博(山種美術館学芸部長↓副館長)